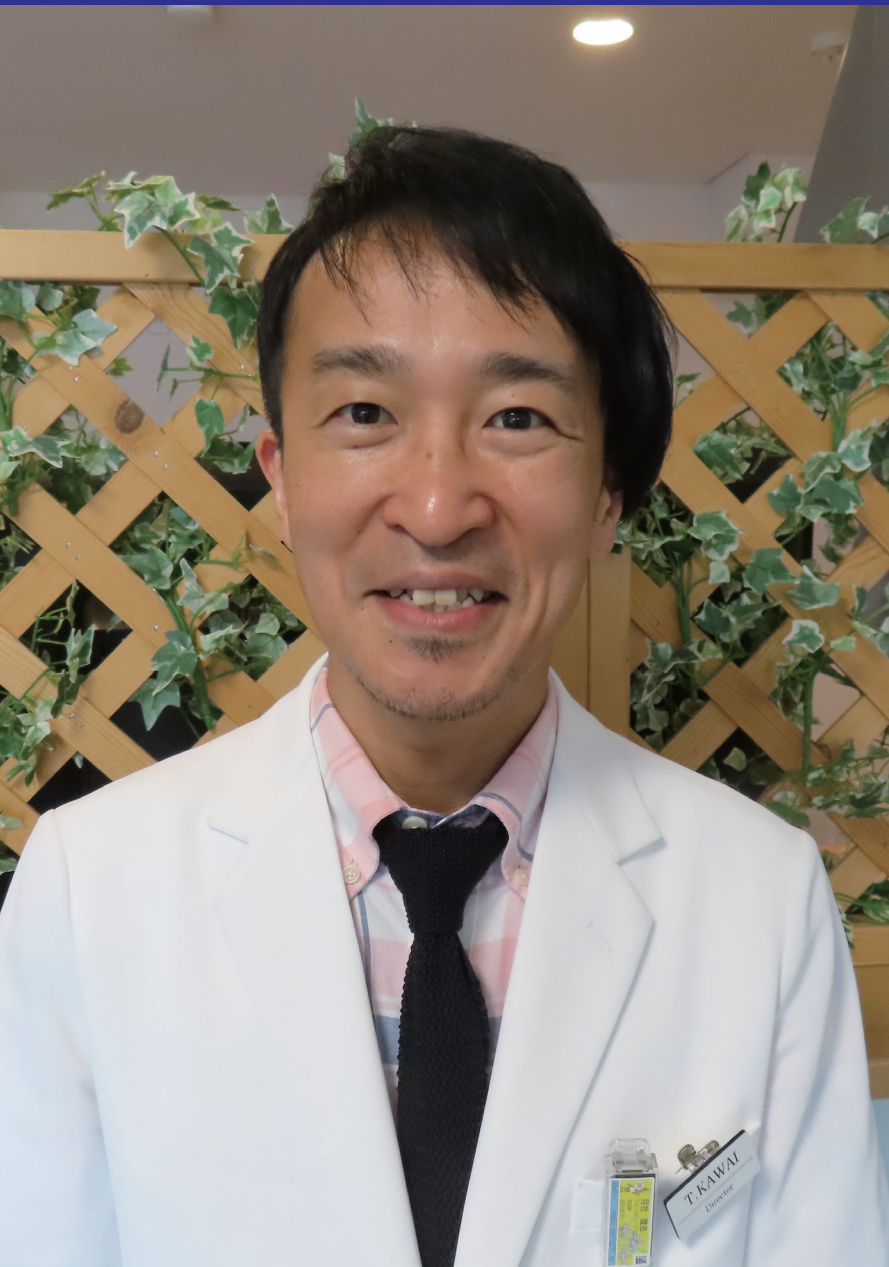


フェリシティークリニック名古屋
河合隆志 院長に訊く構成／須山久里
医療ジャーナリスト

掃除の力を上げてバランスを保てれば
共存できますし、上回ればがんは
縮小していきます

「開業してから9年以上経ちましたが、統合医療を取り入れた患者さんはハッピーになられているのをいつも拝見しています」



河合 隆志 (かわい・たかし)

1975 年、愛知県出身。医学博士。日本整形外科学会専門医。日本抗加齢医学会専門医。慶應義塾大学理工学部卒業、同大学大学院修士課程修了。東京医科大学医学部卒業。東京医科歯科大学大学院博士課程修了。愛知医科大学学際的痛みセンター勤務後、米国のペインマネジメント&アンチエイジングセンターほか研修。2016 年、フェリシティークリニック名古屋を開院。肩こり、腰痛、関節痛といった長引く体の痛み、原因不明の体調不良、がんや脳梗塞、心筋梗塞など加齢によって生じる諸問題の予防および治療に関する「最後の砦」であることを自負し、日々診療に当たっている。

今回は名古屋のビジネス街にあり、地下鉄丸の内駅から徒歩2分の「フェリシティークリニック名古屋」取材いたしました。クリニック名の「フェリシティー」は「幸福、至福」を意味し、まさしくクリニック名の通りに患者さんに幸せをもたらす「感動を刻むクリニック」を目指されています。

院長の河合隆志医師は開業してすぐにお父様がステージⅣで余命3カ月との宣告を受けたことから、アンチエイジング医療で学んだ高濃度ビタミンC点滴療法を抗がん剤と併用し、副作用を大きく軽減させて腫瘍も縮小することができた経験をお持ちです。そこで、標準治療とそれをサポートする統合医療をベストマッチさせた医療を多くのがん患者さんに広めたいと思い、日々がん治療に取り組まれています。

そこで、河合院長に実践されているつしやるがん治療や、専門とされている痛みのことなども含めて、いろいろとお訊きしました。

内面を含めた全体をじっくりと診ていく医療を行いたいと思開業

「まず、先生のご経歴からお話してください。」

河合 実家がトヨタ自動車の下請け工場を経営していたので、当初は慶應義塾大学の理工学部に進学しました。卒業後は大学院に進んだのですが、医療に興味がありましたので医学と工学の学際領域における研究を行っていました。しかし、大学院で

就職活動をしているときにどうしても医師になりたいという気持ちが抑えられなくなり、あらためて東京医科大学に入学しました。

卒業後は東京・お茶の水の三葉病院で研修し、その後は東京医科大学の大学院で学び、続いて愛知医科大学「痛みセンター」で慢性痛の診療に取り組みました。

そして、患者さんの内面を含めた全体をじっくりと診ていく医療を行いたいと思い、2016年に「フェリシティクリニック名古屋」を開業し、現在に至っています。

原因に対してアプローチできていなかったから治らなかった

——クリニックで行われていたつしやることから伺います。こちらでは、①痛みからの解放、②最高の健康状態の実現、そして③がんの克服を目指しておられるそうですが、それぞれを順にお話しいただけます。まず痛みからの解放ですが、なぜ「痛み」を選ばれたのですか。

河合 私自身が医学生の際から首こり、肩こりがとてもひどかったからです。整形外科やペインクリニックはもちろん、鍼灸やカイロプラクティックなどいろいろな治療を受けてきました。しかし、一向に良くなりません、ブロック注射も数えきれないほど受けましたが効きませんでした。医師としての経験を重ねた今、振り返れば原因に対してアプローチできていなかったから治らなかったのだ

と思います。

——つまり根本治療ではなく、すべて対症療法だったわけですね。

河合 ブロック注射は麻酔薬を使うんですけれども、麻酔が効いているうちはやっぱりいくら楽なのですから、切れてしまうと元通りなのです。筋肉が凝ってしまっているのが癖になっていたことが原因であつたので、その癖を取り除かない限り根本的な治療にはならなかったのです。

——その癖はどうやって取り除いたのですか。

河合 2つあります。1つは心と体はつながっているもので、心が緊張していると体の緊張にもなります。そこで、認知行動療法という治療で心のコントロールを行います。認知行動療法は、「認知」と「行動」を変えらることで気分や体を楽にしてストレスとうまく付き合っていくようにする治療法です。勤務していた愛知医科大学をはじめ、すでに多くの医療施設で痛みのコントロールに取り入れられています。

もう1つは交感神経の緊張などにより血流が落ちると筋肉が縮んでしまい、それが続くと癖になってしまふので、ボトックスでその緊張を緩めて癖を治します。ボトックスはボツリヌス菌が産生するボツリヌス毒素により、神経伝達物質の放出を遮断します。神経伝達が途絶えることで、筋肉を一時的に麻痺させ、強制的に緩ませてくれます。

効果が3カ月ぐらいい続くのですが、

3カ月間緩みっぱなしになると「緩んでいることが正常である」と脳が認識し、癖が取れてくるのです。

「どこも悪くないので、精神的な問題では」と片付けられ

——どのような方が痛みの治療を受けにいらつしやるのですか。

河合 お見えになる方は慢性痛、つまり長引く痛みで悩んでいる方がほとんどです。たとえば、手術を受けた後に、主治医の先生は「もう治つた」とおっしゃるんだけどまだ痛みが取れない、しびれが取れないなどの方々です。レントゲンやCT、MRIなどでは問題が見つからずに、「どこも悪くないので、精神的な問題では」と片付けられてしまつて、途方に暮れた末にいらつしやいます。

——そのような患者さんにはどのような治療をされるのですか。

河合 まず、私のほうでもう1回体



クリニックはいつもあたたかく患者さんを迎えてくれる



点滴はくつろぎながら受けることができる

を調べさせていただきます。そして、割合としては低いですが疑わしいところが見つかれば、大学病院などに紹介いたします。

しかし、そうでない方にはこちらで治療を行います。まず、筋肉の緊張の癖がついてしまつている方だったら、先ほどお話しした認知行動療法とボツリヌスによる治療を行います。

ほかには、人には疼痛閾値^{いしき}というものがあります。これは痛いと感じる刺激の最小強度を指し、ある刺激が身体に加わったときに「痛み」として認識されるかどうかの境界線のことです。これには個人差があり、弱い刺激を痛みとして感じてしまうように敏感になつている方がいらつしやるのです。それが明らかに認められる方には、疼痛閾値を回復させるお薬、つまり痛みが鈍感になるお薬を処方します。そして、同時に認知行動療法を行います。

私は薬はあくまで治療の補助と考えていますので、これらを組み合わせ、「ちょっと薬になったから、あれこれやってみようかな」と患者さんに行動してもらいながら、薬を減らしていくようにしています。

アンチエイジングは「究極のがん予防」とも言われています

——人の体はほんとうに複雑ですね。次に、最高の健康状態の実現についても伺いたいと思います。

河合 最高の健康状態の実現は、アンチエイジング医学や予防医学などを取り入れて実現させていきます。いわゆる典型的なアンチエイジングともいえる「若々しく元気で過ごしたい」という方や、更年期症状を改善したい方、さらにがんや動脈硬化を予防したいという方などがお見えになります。

会社の経営者の方などは「自分が倒れてしまったら、会社が大変だ」ということで、日頃から健康維持に留意していききたいとして、アンチエイジングを求められることが多いです。

そのような方には、「高濃度ビタミンC点滴」やサプリメントを使った「栄養療法」を行ったり、40代を超えた方には「天然ホルモン補充」を行ったりしますが、天然ホルモンは更年期症状の方にもとても効果的です。ホルモンには合成のものもあり、保険診療で更年期症状を訴える」と治療に使われます。よく効くのですが、副作用の問題がありますので

当クリニックでは天然のものを使用しています。

さらに、アンチエイジングは「究極のがん予防」とも言われていますので、高濃度ビタミンC点滴などを定期的に受けられる方もいます。

——アンチエイジングは究極のがん予防ということは、取材でよく医師からお聞きします。そこで、がんについてお聞かせいただきたいと思いますが、まず初診の患者さんにはどのようなお話をされますか。

河合 当クリニックでは現在患者さんの6割くらいががんの方で、痛みとアンチエイジングの方が2割ずつという構成です。患者さんはステージⅣの方が多いのですが、まず1時間半から2時間ぐらいかけてとにかく細かくお話を伺って、状況を正確に把握することに努めています。そして、がんがどのような病気なのかということをお話します。

がんは重篤な病気なのですが、がん細胞自体は決して特別なものではなく、毎日誰でも4千〜5千個も発生しています。それを自分で掃除しバランスをとりながら過ごしているのですが、あるときに発生するスピードが速くなったのか、掃除するスピード遅くなったのか、バランスが乱れてがんになってしまったのです。そこで、掃除の力を上げてバランスを保てれば共存できますし、上回ればがんは縮小していきます。なんとかこの掃除の力をアップさせて、まずは共存を目指すことから始めま



クリニックにはレントゲンも完備されている

しようと、お話しします。

ほとんどの方が、「こんなに話を聞いてもらったのは初めてだ。思いを全部伝えられて良かった」と言ってくれます。私は治療法の説明はしますが、治療を強制することはありません。一緒に考えていきたいと思いますというスタンスです。患者さんも「そのほうが安心できる。一緒に考えてくれて、ほんとうにありがたい」と話してくださいます。

標準治療の効果を高める高濃度ビタミンC点滴療法と6種複合免疫療法

——先生は多くの治療法を取り入れていらっしゃるのですので、患者さんの選択の幅が広がるのは良いのですが、迷われることもあるのではないですか。

河合 クリニックのホームページにも取り入れている治療法をすべて掲載していますが、確かに迷われてし



少人数で点滴を受ける部屋も用意されている

もう患者さんもうらっしゃいます。その際は、先ほどお話ししたががん細胞の掃除が追いつく、できれば上回ってがんが縮小するような治療法を選ぶようにお勧めします。そうすることでもがんをコントロールしやすくなるからです。

では、どの治療法ががんを一番コントロールしやすいかと言えば、やはり標準治療です。しかし、なかには標準治療を悪いものと思いついて入る方もいらっしゃいます。その際には、誤解を解いていくような説明をして、うまく標準治療を使いましょうとお話しします。

もちろん標準治療の効果を高めるための治療もご提案しています。高濃度ビタミンC点滴療法は標準治療とともに相性が良い治療だと思っています。それに加えて、免疫細胞療法の「6種複合免疫療法」のお話もいたします。

そして、クリニックに高濃度ビタ

●フェリシティクリニック名古屋

〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-14-19 安藤ビル3・4階

TEL : 052-231-5025

<https://www.felicityclinic-nagoya.com/>

ミンC点滴などを受けにいらつしやる際には、毎回しっかり患者さんとお話をして情報交換するよう努めています。メンタルケアと言っては大きな誤りですが、コミュニケーションを深めることで、安心して治療を受けていただきたいからです。

——他に切り入れていらつしやる主な治療法についてお話しください。

河合 αリポ酸は単体でがん治療に使うことはありませんが、ビタミンCをリサイクルしてくれる効果がありますので、ビタミンC点滴の後にαリポ酸を点滴して、効果を長持ちさせる目的で使います。たとえば、高濃度ビタミンC点滴は初期ですと週に2回受けていただくことを推奨するとプロトコルにも書かれています。費用のことも通院の事情で週2回が難しい方は、αリポ酸を同日に受けることで効果を持続させることができます。

また、オゾン療法も取り入れています。単体でも理論的には抗がん効果のある治療ですが、ガイドラインでは補助療法の位置づけになります。そこで、オゾン療法は免疫力や体力の向上目的で使っています。

アルテスナイト療法も点滴で行うのですが、昔からマラリアの治療に使われているので安心して受けていただけます。がん細胞は鉄を多く取り込んでいますが、アルテスナイトは鉄と反応して活性酸素を発生させ、がん細胞だけを選択的に攻撃します。費用はかかりますが、CTC検査

(血中循環がん細胞検査) という、抗がん剤や抗がん天然成分への感受性が詳細にわかる検査があります。この検査でアルテスナイトの感受性もわかりますので、感受性が高ければ強くお勧めしています。

——さきほど、がんを一番コントロールできるのは標準治療といわれていましたが、詳しく教えてください。

河合 標準治療は、世界中の最先端のエビデンスが積み重なっている治療です。そこで、「現在の治療があなたのがんに最適なものだから頑張ってください」とお話しします。そして、「副作用が辛い場合は、こちらでしつかり対応します。半分以上に和らげることが出来ます」とお話ししています。

ただし、稀ではありますがCTC検査の結果、感受性が低い抗がん剤治療を受けている場合もあります。その場合は主治医の先生に検査結果をご覧いただきますが、ご理解のある先生もいらつしやれば、CTC検査をご存じないなどで頭から否定される先生もいらつしやいます。主治医との関係は大切なので、この辺は難しいところです。

——標準治療が適用できなくなってしまう患者さんはどうされますか。

河合 高濃度ビタミンC点滴などを行います。CTC検査の結果から治療法を選んでいくことも多いです。抗がん剤だけではなく天然成分の感受性もわかるからです。ステージIVでもピンピンされていて超元気な方

も大勢いらつしやるので、そのような方は私のなかでは全然末期じゃないのですが、本当に体が弱ってしまっている方、末期の方ですと、その患者さんに最適、かつ体に優しい治療をご提案します。

現在13の大病院で臨床試験が進んでいる「自家がんワクチン」を導入

——今後に取り入れてみたいことはございますか。

河合 現在13の大病院で臨床試験が進んでいる「自家がんワクチン」を導入したところです。手術で取った腫瘍からワクチンをつくり、がんと闘うリンパ球を活性化してがん制御を試みる治療法です。個々のがんに合わせてオーダーメイドの治療ですので、効果が期待できると思います。——いろいろとお話いただき、ありがとうございます。本誌のスタンスも「標準治療プラス」ですの



落ち着いた雰囲気クリニック内



「患者さんの笑顔が最高の励みになる」と語る河合院長

で、先生のお考えと合致しています。今後ますますのご活躍を願っています。

最後にがん患者さんにメッセージをお願いします。

河合 「統合医療」というと自由診療を連想される方が多いと思いますが、私の認識は標準治療も含めたものが統合医療です。標準治療だけでなく自由診療にもエビデンスはありますから、世界中で行われている効果的な治療を保険診療だ、自由診療だとの区別をつけずにうまく取り入れることがQOL(生活の質)の向上をもたらすと思っています。そうすればより希望を持って過ごしていただけるので、取り入れることの恩恵は大きいと思います。

私が統合医療を取り入れたクリニックを開業してから9年以上経ちましたが、明らかに統合医療を取り入れた患者さんはハッピーになられているのをいつも拝見しています。